

## 「藤前干潟不法投棄ごみ一掃大作戦」活動報告

名古屋自然保護官事務所

高辻 陽介

川地 由里奈

「作戦」は大成功でした。不法投棄ごみが文字通り一掃されました。この場をお借りして、まずは関係者の皆様に深く感謝申し上げたいと思います。(社)愛知県産業廃棄物協会(以下、「愛産協」)からは、今回の作業に必要な不可欠な重機とマンパワーを、ボランティアでご提供いただきました。非常に大きな力でした。また、関係行政機関(愛知県(土地管理担当)、名古屋市(ゴミ処理担当))とも連携して、一体となって取り組むことができました。どれ一つ欠けても、今回の成功はあり得なかったと思います。撤去されたごみの量は60トンを超えました。

当日(H22.11.19)の天候は晴れ。風も穏やかで、作業するには絶好のコンディションでした。現場には報道関係者の方々も数多く来られていて、また報道ヘリコプターまでもが上空を飛んでいたことから、今回のゴミ撤去はとても大きな注目を集めていたものと思います。

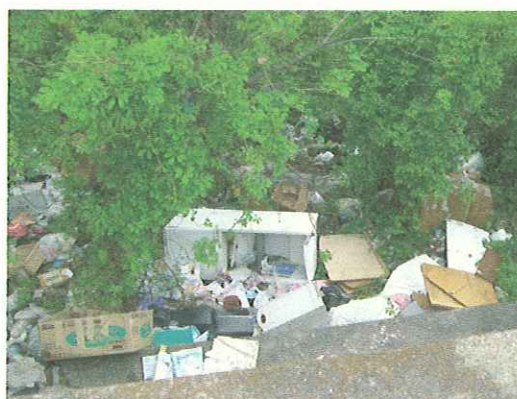
実際に作業をして眼にしたゴミの量は想像以上で、不法投棄ごみ問題の深刻さを物語っていました。この問題は、名古屋自然保護官事務所が長年(関係者によると少なくとも10年くらい前から)抱えてきた問題です。これまでこの問題を何とかしようと、環境省としても監視カメラを設置したり、不法投棄防止のための看板を設置したりしてきました。そのたび、現場の様子を見てきたつもりですが、実際に作業をすると、深さがある分それがとてつもない量であることを痛感しました。しかしそれだけに、愛産協より提供いただいた重機の導入によって、作業が極めて効率的になりました。今回の場所は、近くに階段はあったものの隣接する道路との間に2メートル以上の落差があり、人力による撤去作業を、量だけでなく地形の面からも困難にしていました。特に家電製品や廃タイヤ等の大きなゴミは、人の力で運ぶのはかなり厳しい状況でした。そのような中で、60トンを超える大量のゴミを撤去できたのは、重機の力によるものが非常に大きかったと思います。手際良い作業には、日頃地元で廃棄物の適正処理に従事されている事業者さんによるプロとしての技を垣間見ました。

重機が入り込めないような場所で活躍したのは、人の手です。当日は、名古屋市や愛知県、中部地方環境事務所の職員に加え、70名を超える愛産協の事業者さん(ボランティア)にご協力いただき、重機では処理仕切れない部分でたくさんのゴミを集めることができました。大勢の方々にお集まりいただいたことで、普段は感じることのない心強さを得るなど、精神的にも大きな心の支えになりました。

作業中、投棄されたごみの一部（ビンなど）を木の根が包み込むように成長しているところがあったのが印象的でした。長年放置され、木の成長と共に組織の内側へ取り込まれたものと思われます。今後は、本来の自然環境に向かって植生等が徐々に回復し、野生生物にとっても本来の生息条件が取り戻されると思います。そうなることをとてもうれしく思います。この場所一带は、藤前干潟と共に、国の鳥獣保護区に指定されています。藤前干潟はラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）にも登録されています。これを機会に、多くの生き物が、再びこの場所に戻ってくることを願っています。

ゴミは一掃されましたが、大切なのはこれからどのように対策を進めていくかだと思います。引き続き関係行政機関とも連携しながら、どのような方法が最も効果的なのか、検討を重ねていきたいと考えています。

#### 撤去前



#### 撤去作業





撤去後

